校内研究の概要

研究主題　「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」（第二次）

ー資質・能力を育てるカリキュラム・デザインづくりの充実ー

1　研究主題設定の理由

本校の子どもには，優れた問題解決者となり，自らの可能性を発揮し，よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけた社会人になってほしいと願っている。

２０２０年，コロナウイルス感染症によって，世界の国々は，医療・教育・経済など，様々な場面で問題を抱えることになった。そして，その状況は現在も続いている。大なり小なり，私たちは生きていく中で様々な問題場面に出会う。それらの問題を解決するために，問題を正確に把握し，自分ごととしてめあて（課題）をもって問題解決に挑む主体的な態度が必要であると考える。さらに，自分一人では到底解決できない問題は，専門家や仲間と解決しようとする協働的な態度も必要だろう。子どもが優れた問題解決者になるために，「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」を主題に掲げ，校内研究を進めていく。昨年度の校内研究会では，下記のような成果と課題が出された（R3研究紀要参照）。

【主にカリキュラム・デザインについて】

〇学年の子どもたちの実態を把握し，育成したい資質・能力を捉えることができている（実態把握からスタートしてカリキュラム・デザインづくりを行う）。

〇子どもたちが，「なりたい自分たちの姿」を掘り起こし，話し合うことで，「自分たち自身」を捉えようとした。そして，学年担任団が育成した資質・能力を捉えてカリキュラム・デザインづくりを行うことで，子どもと教師の願いが合致し，目指す方向を共有することができている。

〇授業や行事など，様々な場面で，なりたい自分たちの姿や学年目標にもとづいた振り返りを行うことができている。教師の支援も明確になり，子どもたちに寄り添うことができている。そして，指導と評価の一体化につながり，子どもたちの伸びや成長を見取ることができている。

〇カリキュラム・デザインづくりを行うことで，育成したい資質・能力が明確になっており，見通しをもって授業づくりや行事に取り組むことができている。

【主に授業研究会について】

〇学年で同単元・同教時の授業を行うことで，効果的な指導のあり方を考えることにつながっている。

〇子どもの姿を通して，資質・能力を語ることができている（授業を見る目が統一されてきている）。

〇南小学校で育成したい資質・能力と教科の目標のつながりが明確になってきている（資質・能力と教科の目標を具体的な子どもの姿で考えている）。

【主に研究の日常化について】

〇資質・能力の育成を目指して，探究型学習の過程を大切にして，工夫して授業を行うことができている（日々の授業づくりの基盤となるもの）。

・子ども自身による学習課題の設定と解決の見通しをもつ主体的な学習。
・自力解決。
・学級全体・グループ・ペアでの協働的（対話的）な学習。
・子ども自身による学習のまとめと振り返り。

【主にカリキュラム・デザインについて】

●子どもたちが，自分たちを客観的に捉え，「なりたい自分たちの姿」を設定するには，時間を要する（十分な時間の保障が必要）。さらに，低学年では，難しいことであり，教師側の思いをもとにした資質・能力の設定になってしまう（低学年での設定は要検討）。

●教育課程全体を通して，「なりたい自分たちの姿」を，子どもたちが意識していたかを考えると，まだ個人差がある。

●もう少し早くカリキュラム・デザインづくりができれば，より見通しをもって取り組むことができる。

●生活科・総合的な学習の時間を中核にしているが，コロナ禍で，子どもの思いに寄り添ったり，イメージ通りに取り組んだりすることができない場合もある。また，学年間の交流ができず，目指すべきイメージがもてない場合もある。

【主に授業研究会について】

●資質・能力を育成するための教師の手立てについて，事後研でもっと触れてもよい。

南小学校の子どもたちのために必要と考える資質・能力を捉えて，学年の子どもたちを育てるカリキュラム・デザインを充実させていくことが求められる。これまで以上に，子どもの実態や優れた問題解決者に育てるために必要な教育内容を，教科等横断的な視点をもとに構成した授業づくりを推進していきたい。

２　学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実＝研究の重点（R３研究紀要Ｐ３参照）

Ａ 学年の子どもの思い（なりたい自分たちの姿）を掘り起こして実態を把握し，学年の子どもに必要な資質・能力を明確に捉える。
Ｂ 各教科・道徳・総合的な学習の時間など，教科等横断的な支援方法を計画し，学年のカリキュラム・デザイン（学年経営案および教科等横断的な単元づくり）を作成し，研究の内容（２）南小版探究型学習を基盤にし，PDCA を大切にした実践を行う（作成の共通理解，なりたい姿と生活と総合・教科の関わり・振り返り）。**※学校経営概要参照（Ⅷ-１０）**
Ｃ 授業研究会や外部講師による助言をいただくことを通して，資質・能力を育てるよりよい方法を検討していく。
Ｄ 評価を校内研究全体会で共有し，来年度につなげる。**※研究紀要参照**

『優れた問題解決者を育てるために必要な資質・能力』一覧表　　資質・能力―南小版―

研究主題との関わり／資質	主体的に問題を解決する子ども	協働的に問題を解決する子ども
生きて働く【知識及び技能】	①　知識や概念を見出す（発見する）楽しさや喜びを理解している。 ②　知識や概念・技能を活用する楽しさや喜びを理解している。	①　互いの見方や考え方を出し合うことで，国際理解・情報・環境・福祉・健康・科学技術・町作り・キャリア・生命などの知識や概念の大切さを理解している。
	③　自分の考えを伝える楽しさや喜びを理解している。 ④　他者の考えを聞くことで，自分の見方・考えを広げたり，深めたりする楽しさや喜びを理解している。	②　考えたことや伝えたいことを，相手意識をもって丁寧に話すことができる。 ③　話し手の目的や意図をつかみながら受容的に聞くことができる。 ④　自分の考えと話し手の共通点と相違点を見つけることができる。
	⑤　図書館の資料やインターネットなどで情報を集めることができる。	⑤　問題に向き合っている他者（専門家や地域の方など）から情報を集めることができる。
未知の状況に対応できる【思考力，表現力，判断力等】	⑥　事象に対して，疑問・気づきをもつことができる。 ⑦　疑問から解決すべき問題を見出すことができる。 ⑧　問題を自分ごととして捉え，自己課題をもつことができる。 ⑨　問題解決のための見通しをもつことができる。	⑥　他者との交流や振り返りを通して課題を更新することができる。
	⑩　根拠をもとに，自分の考えや意見をもつことができる。 ⑪　自分の考えや意見を整理して言葉に表すことができる。	⑦　自分の考えと他者の考えを比べることができる。 ⑧　根拠をもとに相手に自分の考えや意見を伝えることができる。 ⑨　言葉・劇・動作化・演説など工夫して目的や意図を他者に伝えることができる。
	⑫　比較・分類したり，傾向の読み取りをしたりしながら価値ある情報を取捨選択することができる。 ⑬　選択した情報を関連づけて，自分の考えを創り上げ，問題を解決することができる。	⑩　自分の考えと他者の考えを関連づけて，自分の考えを更新したり，明確にしたりすることができる。 ⑪　他者と協力し合い，問題を解決することができる。
学びを人生や社会に生かそうとする【主体的に学習に取り組む態度】【学びに向かう力，人間性等】	⑭　自らの思いや願いを叶えようとする。 ⑮　自分のよさを見つけようとする。 ⑯　学習や生活を振り返ることで自分の成長を捉えようとする（メタ認知）。 ⑰　意欲や自信をもって学ぼうとする。	⑫　他者の思いや願いを受け入れようとする。 ⑬　他者のよさを認めようとする。 ⑭　他者と交流し，異なる意見を生かして，自分の見方・考え方を更新したり，明確にしたりすることができる。
	⑱　思いや願いの実現に向けて豊かな生活を創ろうとする態度をもつ。	⑮　他者と協力しながらよりよい（集団）生活を創ろうとする態度をもつ。

３　研究の内容

（１）学校教育目標・学校経営の方針を意識し，教育課程全般を通した研究

学校教育目標

夢を持ち　共にまなび　未来をひらく　若竹っ子の育成

わ　輪になって共に学ぶ子ども

か　考えを進んで伝え合う子ども

た　助け合い思いやりのある子ども

け　健康でたくましい子ども

教育課程

各教科，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事，給食，清掃などを区別することなく，教育課程全般を大きな授業と考え，計画・実践するにあたっては，「主体的・協働的に問題を解決する子ども」の育成を意識して行う。

学校経営の方針

「全ての子どもを優れた問題解決者に育てる」（問題解決力の育成）を根幹に，全教職員の共通理解と協働体制のもと，教育活動を展開する。

（２）「南小版探究型学習」の日常化（変更　日々の授業づくりを大切にしていきましょう）

⇒指導要領では，「主体的・対話的で深い学び」　南小は，対話的＝協働的で統一（同じ意味）

授業（授業研究会や日頃の授業）に関すること（各教科・道徳・総合的な学習の時間）

【習得・活用・探究の過程において，以下のことを大切にしていく。】

①主体的な学び

〇学習課題（めあて）の設定と解決の見通し

・児童の願いや思いを大切にした主体的な学びを育む課題設定を行うことができるようにする。

・児童が学習の課題を自らの言葉や文字で表現できるようにする。

・課題設定において，解決方法の見通しをもつことができるようにする。

〇自力解決

・対話的な学びに至る前に，自分の立ち位置を決めるために自己決定の場を設ける。

②協働的な学び（対話的な学び）

〇学級全体・グループ・ペアで協働的に学ぶ学習

・子ども同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手がかりに考える。

・自己の考えを広げ（友達の考えを受け止める）深める（自分の考えを再構築する）。

③深い学び（主体的で協働的な学び　資質・能力に結び付く学び　教科等の「見方・考え方」を働かせた学び）

④まとめと振り返り

〇各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びについてのまとめや振り返り。

〇児童が学習のまとめや振り返りを，自らの言葉や文字で表現。

特別活動に関すること

【学校行事では，児童の主体的な取り組みと協働的な取り組みを全職員で大切にしていく】

【児童会では，児童の願いや思いを大切にした活動を行う】

①主体的な取り組みを大切にし，児童への指示をできるだけさけ，児童が試行錯誤して，意思決定をすることができる発問を行い，学習や活動を任せる場面をつくる。

②協働的な取り組みを大切にし，児童同士の関わりをつくる支援を全職員が行う。

③児童が繰り返し経験を重ねながら，自信を深めていく機会を設けることを大切にしていく。

④常時活動で責任感を育てるとともに，創造的活動にも主体的に取り組むことができるように支援する。「６年生を送る会」など発表会よりも，児童同士の関わりがうまれる協働的な活動を行う。

（3）学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実＝研究の重点

（4）授業や特別活動など，教育課程全般で大切にしていく振り返り

①主体的な学習経験をもとに，見通しをもって粘り強く取り組んだ自分のよさを振り返る。

②協働的な学習経験をもとに，自分や友達の広げ深めた考えのよさを振り返る。

③振り返りの仕方について検証して共有していく。

「振り返り」の目的

・問題解決力の育成を目指してメタ認知の力を子どもたちにつける。

（子ども自身が，自分を俯瞰してとらえ，自分の行動や生活が「ひと」「もの」「こと」と関わっていることをもう一人の自分が冷静に認知することができる力を指す。）

・「振り返り」を大切にすることの意義

自分のよさを認識し，自己肯定感をもつことができる。その過程で，友達を中心とした「ひと」との関わりがあってこそ，自分が伸びることができたという成長感を子ども自身で振り返ることができる。さらに，次の学習や活動への課題意識と意欲をもつことができる。

（5）子ども主体の研究をする

①具体的な姿（固有名詞）を通して実践研究を積み上げていく。

②子どもの姿（固有名詞）をもとにした事後研究会とする。子どもの姿を見取り，学年の子どもの育てたい資質・能力や教科で付けたい力が身に付いているかを明らかにしていく。

（6）職員の協働研究を大切にする

①学年での事前研究・研究授業・事後研究を推進する。

②授業者とその学級の児童の姿から学ぶ意識をもつ

③参観者は，学習活動案・研究授業・事後研究会で，授業者と児童の姿から成果を見出し，日頃の実践に生かすようにする。授業者は，授業後と事後研究会後で，省察した自分の成果や課題を児童の姿から見出し，日頃の実践で生かしたり解決したりする。

④運動会や児童会などの特別活動では，全職員で校内研究を意識しながら全校児童の支援にあたる。

4　研究の方法

（1）授業研究会を全学年と特別支援学級（録画・映像視聴による授業可）で，7回の校内授業研究会を行う。研究の内容（5）を大切にした事後研究会を行う

（2）学級担任は，全員が学年のカリキュラム・デザインに関わる（中核・重点教科・関連教科）授業研究会を行う。同学年の学級は，**指導案を作成（小研は本時のみでもよいとありますが、指導案１枚目＋本時＋座席表だと資質・能力や具体的な姿がわかりやすいです　わかたけ学級は学級単独の指導案）**し，同じ教科・同じ単元での授業を行い，協働的に授業づくりを行う。日程や授業の位置づけは，学年で検討する。

（3）今年度，１年生と４年生が２学級のため，協働研究者として，教務（１年）と副教務（４年）が入り，授業づくりを行うことができるようにする。

（4）学年で事前研究会，授業の参観および事後研究会を行い，カリキュラム・デザインの実践を通して，資質・能力や教科で付けたい力が身に付いているかを，子どもの姿を通して検証する。授業の日程を教職員（教務・研究主任には早めに）に知らせ，参観できるようにしていく（可能な限り参加する）。

（5）授業研究会では，グループごとに行い，以下の視点で協議する。

①主体的に問題を解決する子どもに向かうための支援方法と子どもの姿について（青）

②協働的（対話的）に問題を解決する子どもに向かうための支援方法と子どもの姿について（赤）

③学年で目指す主体的・協働的に問題を解決する子どもの姿（学習活動案１枚目の主体的・協働的に問題を解決する姿と育てたい資質・能力について　他に見られた資質・能力もOK）と振り返りの見取り（緑）

→「主体的・協働的に問題を解決する子どもの姿（資質・能力と結び付けて）」＝深い学びの姿　と変更。

（4）研究推進委員が輪番で事後研だよりを作成する。また，研究紀要にも使えるようにする（変更）。

（5）カリキュラム・デザインに関わる授業の記録や写真（研究紀要に使えるように　研究推進委員を中心に）を各学年で残しておく。

５　校内研究会の組織と全体計画

（1）研究推進委員について

1年	2年	3年	4年	5年	6年	わかたけ	担外
鈴木	石山	斎藤	鏡	三宅	小野	細矢	伊藤
用具	用具 記録	用具	記録	主任・会場	副主任・会場 掲示用めあてとまとめシート作成	記録	会場・日程

◯研究主任　　三宅　慶知　　・副研究主任　小野　拓
◯会場準備　・用具準備（マジック・画用紙・マグネット）
◯記録（写真・話し合いの記録【PC】プロジェクター・スクリーン）
◯事後研究会での司会，事後研だよりは，研究推進委員の輪番制（変更）

（2）全体計画

	日　程	内容（研究授業学級・授業者）	講　師 アドバイザー
推進委員会①	４月18日（月）	４月25日（月）第１回全体会に向けて	
第　1回	４月25日（月）	主題・計画の提案（R4年度の校内研究について）	
推進委員会②	５月10日（火）	５月13日（金）カリキュラム・デザインづくりに向けて（提案　学習会）	
第　2回	５月13日（金）	各学年のカリキュラム・デザインづくり① （学年経営案・児童の実態把握・教科等横断的な単元づくり）	
第　3回	５月23日（月）	各学年のカリキュラム・デザインづくり② （学年経営案・児童の実態把握・教科等横断的な単元づくり）	
第　4回	７月８日（金）	授業研究会（第1回）	
第　5回	７月15日（金）	授業研究会（第2回）	
推進委員会③	７月22日（金）	７月29日（金）研究全体会に向けて	
第　6回	７月29日（金）	研究全体会（講習会・研修会）（中間評価と修正）	
第　7回	10月24日(月)	授業研究会（第3回）	
第　8回	11月４日（金）	授業研究会（第4回）	
第　9回	11月14日(月)	授業研究会（第5回）	
第１０回	11月28日(月)	授業研究会（第６回）	
推進委員会④	12月15日(木)	12月26日（全体会に向けて）	
第１１回	12月16日(金)	授業研究会（第7回）	
第１２回	12月26日(月)	成果と課題　研究紀要提案	
推進委員会⑤	２月６日（月）	研究紀要の綴じ込みと２月13日（月）全体会に向けて次年度の方向性の確認	
第１３回	２月13日（月）	全体の成果と課題と来年の方向性の検討	

★研究推進委員会については，他に臨時で行うこともあります。

６　研究の構造図

学校教育目標「夢を持ち　共にまなび未来を開く　若竹っ子の育成」

経営方針「全ての子どもを優れた問題解決者に育てる」

研究主題「主体的・協働的に問題を解決する子どもの育成」

「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力」「学びに向かう力，人間性等」
子どもの資質・能力を捉え，学年の子どもを育てるカリキュラム・デザイン

主体的・協働的に問題を解決していく子どもを育てるためには，どんなカリキュラム・デザインに？
主体的で協働的（対話的）で深い学びとは？

「探究型学習」
「主体的・協働的（対話的）で　深い学び」の実現に向けた授業改善の推進＝研究の日常化

全体会
児童の実態
成果の共有
課題の克服
研修

各教科
道徳
総合的な学習の時間
特別活動
（運動会・児童会など）
給食活動・清掃活動

研究の日常化
研究授業
７回
事前関連授業
１２回

教育課程全般

学年の子どもを育てるカリキュラム・デザインの充実

Ａ学年の子どもの思い（なりたい自分たちの姿）を掘り起こして実態を把握し，学年の子どもに必要な資質・能力を明確に捉える。

Ｂ各教科・道徳・総合的な学習の時間など，教科等横断的な支援方法を計画し，学年のカリキュラム・デザイン（学年経営案および教科等横断的な単元づくり）を作成し，研究の内容（２）南小版探究型学習を基盤にし，PDCA を大切にした実践を行う（作成の共通理解，なりたい姿と生活と総合・教科の関わり・振り返り）。

Ｃ授業研究会や外部講師による助言をいただくことを通して，資質・能力を育てるよりよい方法を検討していく。

Ｄ評価を校内研究全体会で共有し，来年度につなげる。

子どもの「資質・能力を捉える」ことができる教師
子どもの主体的・協働的な学びを「支援」できる教師